



2021年5月7日

各 位

会社名： 新明和工業株式会社
代表者名：取締役社長 五十川龍之
(コード番号：7224 東証第1部)
問合せ先： 経営企画本部
 広報・IR部長 実平典子
(TEL 0798-56-5002)

長期経営計画 及び 新中期経営計画に関するお知らせ

新明和工業株式会社(取締役社長 五十川龍之)は、このたび、2024年3月期を最終年度とする新たな中期経営計画を策定致しました。

なお、今般の中期経営計画は、我々が志向する「長期ビジョン」を具体化していく長期経営計画「Sustainable Growth with Vision 2030 -価値創造による持続的成長- (以下、[SG-Vision 2030]と記します)」のPhase I にあたります。

本資料では、[SG-Vision 2030]の目標と方向性、及び新中期経営計画の概要についてお知らせ致します。

1. 長期経営計画[SG-Vision 2030]

(1) 長期経営計画の策定に着手した経緯

- ・今後も持続的成長を続けていくには、「経営理念」を拠り所とする、当社グループの将来展望(=長期ビジョン)を掲げるとともに、それを志す「長期志向経営」への転換が必須であること
- ・「長期ビジョン」を実現するには、そこで描いた当社グループのありたい姿を具体化し、その姿と現状とのギャップをバックキャストで埋めていく、長期目線に立った経営計画が必要と考えたこと

(2) 新明和グループが掲げる長期ビジョン

以下に記す「長期ビジョン」を、我々が2030年に目指す姿と定め、この具体化に取り組む。

グローバルな社会ニーズに応え、
都市・輸送・環境インフラの高度化に貢献する
価値共創カンパニーを目指します。

■長期ビジョンに込めた想い

- ・技術革新により、「都市」「輸送」「環境」これら3つの社会インフラの高度化を通じて、グローバルな社会課題に最適なソリューションで応える
- ・新明和グループの総力を結集するとともに、アライアンスも積極活用することで、新たな価値をスピーディーに創出する「価値共創カンパニー」を目指す

(3) [SG-Vision 2030]の方向性提示

-1. 基本方針

以下2つの経営テーマに並行して取り組み、社会的価値と経済的価値を持続的に創出することで、企業価値を向上する。

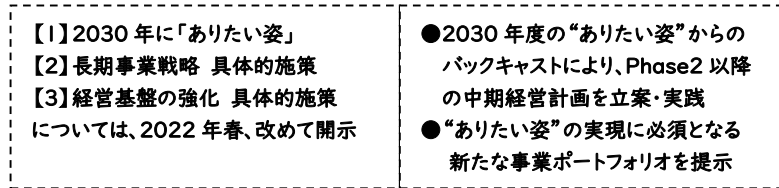
- ① 「長期事業戦略」：2030年に“ありたい姿”を描き、これを実現する事業施策を立案・実践
- ② 「経営基盤の強化」：「サステナビリティ経営」の実践により、長期事業戦略の推進を支えるとともに、SDGsに貢献

-2. 推進計画

[SG-Vision 2030]の期間(2021年度~2030年度)を3つに分け、各期間について中期経営計画を立案・推進することで、「長期ビジョン」の実現及び各種経営指標への到達を目指す。

長期経営計画	Sustainable Growth with Vision 2030 [SG-Vision 2030] -価値創造による持続的成長-		
中期経営計画	2021~2023年度 [SG-2023]*	2024年度~	~2030年度
	Phase I【転換】 「長期志向経営への転換」	Phase2【拡大】	Phase3【飛躍】

*新中期経営計画の略称



-3. 基本方針へのアプローチ

① 「長期事業戦略」

- 当社の強み・リソースを生かせる「都市」「輸送」「環境」各領域で新たなビジネスを創出し、持続的成長を達成するとともにSDGsに貢献

② 「経営基盤の強化」

- サステナビリティ経営の実践：

ESG経営を志向し制定した「サステナビリティ経営方針」の推進により、前項の長期事業戦略の進捗を支えつつ、「価値創造を支える7つの重要課題(マテリアリティ)」の解決」とSDGsへの貢献に取り組む

価値創造を支える7つの重要課題(マテリアリティ)

環境	地球温暖化防止			
	循環型社会への貢献			
社会	ダイバーシティ&インクルージョンの推進			
	働きやすい職場環境の整備			
	地域社会への貢献			
ガバナンス	コーポレートガバナンス体制の充実			
	リスク管理体制の整備・強化			

- DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進：

新たなビジネスモデルの創出や業務改革を加速するべく、外部連携を意識したネットワーク、サイバーテロ等の脅威に対応するセキュリティ強化を織り込んだITインフラを強化する

-4. ROIC(投下資本利益率)経営への転換

目的:① 資産効率を重視した持続的成長

② 資本コストを意識した最適資本構成の追求

目標:WACC(加重平均コスト)を上回るROICの達成及び改善の実施

方針:事業部門別ROIC(社内指標)を判断材料とするポートフォリオマネジメントの実施

- ・WACCとの比較による投資強化及び事業内容の見直し
- ・事業特性に合わせたROIC改善施策の実施

-5. 2030 年度に目指す経営指標・目標水準

経営指標	目標水準
売上高	4,000 億円以上
海外売上高	1,000 億円以上
ROE	12%以上
ROIC	10%以上

-6. 目標達成により実現する「ありたい姿」

- グローバルな社会インフラの高度化に貢献⇒収益力と企業好感度が共に向上
- ESG 重要課題の解決・改善⇒環境・社会的価値の創出、SDGs への貢献
- 持続的成長に基づく資本構成の最適化⇒株主をはじめとするステークホルダーへの高還元
- 多様な人材育成や働きがいのある職場環境の整備⇒社員のエンゲージメント向上

2. 新中期経営計画 ([SG-Vision 2030] Phase I 【転換】 [SG-2023]) の概要

- (1) 前中期経営計画「Change for Growing, 2020(以下、[CFG2020])」の振り返り
- ・売上拡大に伴う増益及び資本構成の見直しにより、ROEの目標値(8%) は、2020.3 期に 1 年前倒して達成
 - ・一方、2021.3 期はコロナ禍もあり、全ての指標が未達
 - ・期間中に 7 社の M&A を実施 (2021.3 期 連結売上高貢献額:62 億円)

・[CFG2020]収益推移

(単位:億円)	2019.3 期 実績	2020.3 期 実績	2021.3 期 当初目標(A)	2021.3 期 実績(B)	目標との差 (B-A)
売上高	2,172	2,272	2,300	2,092	△208
営業利益	107	128	140	104	△36
ROE	6.8%	8.9%	8.0%	6.4%	未達

・セグメント別当初目標・実績、及び成果と課題

(単位:億円)

	売上高		営業利益		成果・課題
	当初目標	実績	当初目標	実績	
航空機	410	259	32	△8	・民間航空機(ボーイング 787、777X、ボンバルディア G7500)量産体制確立 ・コロナ禍による民間機事業収益大幅悪化
特装車	865	947	50	67	・AI、IoT を用いた高付加価値製品開発 ・タイ国現地法人 機能部品シェアアップ及び生産能力増強
産機・ 環境 システム	435	371	37	29	[流体]AI、IoT 技術を導入した新製品投入、 タイ国新設工場稼働 [カト]海外法人含む M&A 実施 自動車向け:貿易摩擦、コロナで減少 [環境]ストック事業需要増による収益拡大
パーキング システム	440	352	32	32	[機械式駐車設備]大型機・エレベータ方式で トップシェア獲得 [航空旅客搭乗橋] AI 技術搭載新製品投入、 海外拠点提携・取得
その他	150	160	13	14	・建設及び不動産事業等が堅調
調整額	—	—	△24	△30	
合計	2,300	2,092	140	104	航空機セグメントにおけるコロナ禍影響甚大 →2020 年 7 月時点で目標値を下方修正

(2) [SG-2023]基本方針

-1. 1(2)で示した長期ビジョンを志向する第一ステップと位置付け、以下4つの方針を掲げて取り組む。

- ① 前中期経営計画[CFG2020]諸施策の継続推進による成果の刈り取り
- ② 長期ビジョンに基づく長期事業戦略の策定と推進
- ③ 経営基盤の強化
 - (a)サステナビリティ経営方針の制定(2021年4月1日付)及びこれらの実践、重要課題(マテリアリティ)管理項目の確定・KPI(2023年度及び2030年度の各目標)の設定、長期事業戦略の推進により、SDGsに貢献
 - (b)DX推進のための「ITインフラ」整備、基幹業務の改革
- ④ 将来価値の創出、及びステークホルダーとの成果の共有
 - (a)ROIC経営の実践により、将来価値を持続的に創出する企業体質に転換
 - (b)利益の一定水準をステークホルダーと共有(配分)

-2. ①長期事業戦略の策定・推進

既存事業の収益向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT/デジタル技術による製品・サービス高付加価値化 ・M&A・事業提携強化による国内事業の収益拡大
海外事業の拡大加速	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアを中心にセグメント間の販売連携を強化 ・現地企業・商社とのアライアンス強化による受注拡大
新規事業の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・社内共創による新ビジネスアイデア立案・開発促進 ・IT系企業等との業務提携による新たなビジネスモデルの創出
事業ポートフォリオの最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・事業成長性(市場成長性含む)及びROICによる事業評価 ・ハードルレートの設定によるROIC経営の徹底

②経営基盤強化に向けた主要施策

地球温暖化防止と循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ推進によるCO₂削減促進と廃棄物削減 ➡循環型社会に貢献 ・環境に配慮した製品・サービスの開発と普及
ダイバーシティ&インクルージョンの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人材ポートフォリオを基本とした人事評価軸多様化の検討 ・社会課題を自ら発見・解決・実践するイノベーション人材の育成
コーポレートガバナンス体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなモニター機能*設置による取締役会監督機能の強化 ・サクセッションプランの導入と運用 *サステナビリティ会議: 全社横断的なESG重要課題に関するモニター及び報告機能
DX推進のためのIT基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> ・外部連携ネットワークやサイバーテロ等の脅威に対応するセキュリティの導入 ・基幹業務改革によるDX推進

-3. [SG-2023]目標値 (2024年3月期末)

売上高	2,500億円
営業利益	150億円
海外売上高	450億円
ROE	10%以上
ROIC	7%以上
成長投資(設備投資・M&A)	300~400億円(3年間合計)
配当性向/自己株式取得	40~50% / 株価水準等に応じて機動的に実施

*為替前提 | ドル=108円

-4. セグメント別業績目標及び運営方針

(単位:億円)

	売上高	営業利益	運営方針
航空機	300	7	・固定翼無人航空機開発及びアライアンスによる新ビジネスの立案 ・US-2(救難飛行艇)後継機開発事業及びPBL ^(*) 事業立ち上げ
特装車	1,020	69	・SSC ^(**) の拡充でユーザーとの繋がりを深化▶新たな価値創出 ・アジア・オセアニア地区での特装車キーコンポーネントの拡販
産機・環境システム	520	49	[流体]TurboMAX 社との販売シナジー強化による海外事業拡大 [メカロ]真空製品の欧米二次電池市場におけるシェア拡大 [環境]中国における排水処理事業のブランド確立及び収益拡大
パーキングシステム	470	38	[駐車設備]G-PARK 社との協業による東南アジアでの 駐車設備拡販 [搭乗橋]フルオート装着システムの積極提案(東南アジア・国内主要空港)
その他	190	14	
調整額	-	△27	
合計	2,500	150	[SG-2023]では、[CFG2020]の当初目標値を上回る、左記 収益の達成を目指す

(*)PBL(Performance Based Logistics):自衛隊で行っている US-2 補給部品などの維持・整備を民間企業(当社)が請け負う

(**)SSC(ShinMaywa Smart Connect):特装車の稼働状況を把握するコミュニケーションツール

以上